



岐阜北週報

8月 会員増強・新クラブ結成推進月間

<input type="checkbox"/> 題字	永瀬 章	<input type="checkbox"/> 会長	永瀬 章	
<input type="checkbox"/> 例会	毎週水曜	<input type="checkbox"/> 副会長	前田 吉彦	2017-2018
<input type="checkbox"/> 会場	岐阜都ホテル	<input type="checkbox"/> 幹事	西垣 康紀	No.1687
		会報委員長	安藤 重広	17.8.26発行

前回の記録

第 1686 回 例会 8/23 (水)
クラブアッセンブリー (3)
I・A・C年次大会報告

担当：インターアクト委員会

本日の予定

第 1687 回 例会 8/26 (土)
長良川 R. Cとの納涼合同例会

担当：会長・幹事

次回の予定

第 1688 回 例会 9/3 (日)
岐阜北ロータリーカップ
バレーボール大会開会式
開会式 岐阜メモリアルセンター

担当：青少年奉仕委員会

会長挨拶

本日は、岐阜城北高校のインターアクト部の生徒さんに参加していただき合同例会です。彼女たちは、先日8月11日12日の二日間に渡り、海津明誠高校のホストする2630地区第40回インターアクト年次大会に参加していただきご苦労様でした。本日は、クラブを代表して4名の部員に年次大会の報告をしていただくために顧問の服部先生、山口先生とともに例会に参加していただきました。当日は29名の参加者があり、参加校中、一番でした。詳細は、後程、彼女たちから報告があります。

私の感想は、皆、すごいな～と感心いたしました。外国から日本に来ているある交換留学生在が留学先の日本において自分の姿、態度、言動が自国の評価となるから責任ある行動を取りたいと思って行動している。

又、フランスへ一年間留学した生徒は、言語で大変苦労したが、今ではフランス語も話せるようになり、他にスペイン語、ポルトガル語、イタリア語などを習得して、自分の将来を見定め社会に貢献できる仕事に従事したいと語っていました。

短期間ではありますが、他人の飯を食うことが如何にその人を成長させるか実感いたしました。

出席報告

会員数：30名
出席数：20/30名

出席報告 (続き)

出席率：66.66%

欠席者：10名 (出席免除3名 76.66%)

来訪者：岐阜城北高校：服部 佐知子 様
山口 直美 様
酒井 杏香 様
有川 愛望 様
安野 萌 様
田口 真衣 様

ニコニコBOX (敬称略)

永瀬 章：ようこそ岐阜城北高校インターアクト部の皆様。
波多野 光裕：岐阜城北高校の皆さんようこそ。
松野 秀計：岐阜城北高校の皆様ようこそ岐阜北ロータリークラブへ。
国井 省二：明日で64才になります。

委員会・報告事項 (敬称略)

■ 親睦・交流委員会

第36期 氷見RCとの親月例会 下記にて
平成29年9月30日 (土)
平成29年10月1日 (日)
多数の参加をお願いします。

■ 直前幹事 波多野 光裕

年次報告書作成のための「委員会報告書」を8月2日に、前年度の委員長のBOXに入れました。8月23日までの提出をお願いしましたが、

委員会・報告事項 続き

提出を失念している会員には、早急の提出をお願いします。

■ ロータリー情報委員会 松野 秀計
I GM 8月25日(金)を行います。

■ 社会奉仕委員会 小森 保敏
8月23日(水)若松学園夏季キャンプを16:00より行います。尚、会場が天候の都合でグリーンプラザみやまより若松学園に変更になりました。

幹事報告(敬称略)

西垣 康紀
岐阜北ロータリークラブ定款・細則・内規が改定されます。

例会行事 I A C年次大会報告会(敬称略)

■ 岐阜城北高校 顧問 服部 佐知子 先生
インターアクト部の顧問として、3年目となります。1年目にRCの例会に参加させていただいたときは、緊張ばかりしていてよく覚えていませんでした。3年目でようやくRCの雰囲気も実感できました。始めに歌われたロータリーソングで、”どこで会ってもやあーといおうよ・・・”を実践していることを、先日開催された「インターアクト年次大会」でも感じました。子供たちにも、挨拶の大切なことを感じてもらいたいと思います。

毎年、年次大会や地区協議会へインターアクト部が参加することにつきましては、RCには、お世話になってばかりいます。それに加え本年は、韓国への派遣や長良川清掃も一緒にさせていただき、ありがたく思っています。また、本年の年次大会では、参加した人全員に、”RC I A C”のロゴが入ったポロシャツが配布されました。このポロシャツを着て、名鉄岐阜駅前やマーサで行う募金活動や10月の長良川清掃活動を行いたいと思います。10月の清掃も、RCと一緒にさせていただければと思っています。

■ 岐阜城北高校 インターアクト部 顧問 山口 直美 先生
岐阜城北高校へ来て9年目になりますが、インターアクト部の顧問は本年の4月からです。インターアクト部は、ボランティア活動と国際交流を行う活動であり、私自身、英語の教師で

例会行事 I A C年次大会報告会 続き

すので、国際交流に役立てればいいと思っています。先程、永瀬会長が最初のご挨拶で、8月に開催された「インターアクト年次大会」でのオーストラリアからの交換学生スピーチを紹介されました。”オーストラリアを代表して、日本に来ているとの自覚を持っている”のフレーズが胸に刻み込まれている、と。私も全く一緒に、皆がこのような気持ちを持っていれば、世界はもっと過ごしやすくなるのでは、と思います。

インターアクト部の顧問になって、RCの会員の方々のやさしさに接し、年次大会では、高柳先生の記念講演「レクリエーションは世界をつなぐ」で、RCの会員の方々が本当に楽しく参加されていたことに感銘を受けました。今後ともよろしく願いいたします。

■ 2年生 酒井 杏香 様

私は、今回のインターアクト韓国派遣を通して学んだことがたくさんあり、私にとって本当に貴重な経験になりました。

韓国に行く前は緊張や心配のほうが大きかったのですが、到着するとホームステイ先の家族の方々が歓迎してくださったり、ケーキや花束のサプライズまでしてくださり、緊張がほぐれ、ホームステイを楽しむことができました。

2日目は韓国のインターアクト年次大会でした。宿舎に泊まり、様々な体験をしました。自分たちのパフォーマンスでは、韓国のみんなが、掛け声で盛り上げてくれたので精一杯踊ることが出来ました。韓国のみんなのダンスもとても上手で凄くかっこよかったです。そのあとはプールに入って遊び、キャンプファイヤーをしました。夜遅くまで歌って踊ってとても疲れたけど、新しい友達とともに楽しい時間が過ごせました。もちろん言葉の壁はありましたが、スマートフォンの翻訳機能アプリを使ったり、ジェスチャーをしたりすることでお互いに伝えあうことができました。そのおかげで、韓国語の日常会話が少しわかるようになりました。

3日目はショッピングに行きました。私が服やコスメが欲しいと言うと、ホストファミリーのイング(高2)が友達を紹介してくれていろいろな所へ連れて行ってくれました。日本よりも、韓国のほうが、例えばTシャツ1枚でもデザイン幅が広く、様々な形のものがあるように感じました。食べ物では、桃が丸ごと1つ盛り付けてあるかき氷(ピンス)がとてもインパクトがあって味も美味しかったです。

4日目はエバーランドという遊園地に行きま

例会行事 I A C年次大会報告会 続き

した。みんなでジェットコースターに乗ったり、動物を見ました。大勢の韓国の人達と交流して友達になれ、生活に密着した異文化交流が有意義な時間が過ごせたと思います。この日が最終日で、別れるのは寂しかったけれど、最後は私たちが見えなくなるまで手を振って見送ってくれました。

韓国の皆さんと一緒に過ごしたこの5日間は、自分にとって本当にかげがえのない思い出となりました。困ったことがあるとすぐに助けてくれた韓国の皆さん、ありがとうございました。そして、今回の派遣に関わって下さった全ての方に感謝いたします。本当にありがとうございました。

■ 2年生 有川 愛望 様

私たち岐阜城北高校インターアクト部は様々なボランティア活動をしています。特に私が思い出に残っている活動は、募金活動です。年に2～3日、マーサ21や岐阜駅などで活動しています。「募金」という言葉や、その活動内容は知っていましたが、自分自身がその活動に参加したことはなく、初めて参加した時はとても緊張しました。

4月に参加した岐阜駅の募金活動では、ルワンダ出身のジェラルドさんも一緒に募金活動をしてくださいました。ジェラルドさんはあしなが募金で集まったお金で大学に通学された方です。実際にこの募金活動のおかげで進学された方がいらっちゃって、その方と一緒に募金活動を行えたことがすごく嬉しかったです。少しのお金でもたくさんの人が募金をして下さると人の人生を救えるんだと感じました。

私は自分が募金に参加する立場になるまでは、何も考えずその場を通りすぎることもありました。でも今は、募金活動をしている人がいるとこの集まったお金で救われる人がいるんだなと考えるようになりました。お金を寄付することができなくても、募金活動をしている人を見たら何かを感じたり考えたりする人が少しでも増えるといいなと思います。その気持ちが募金活動につながるのではないかと感じています。

アフリカの貧しい国に寄付するという言葉を聞いても、実感がわかない人がたくさんいると思います。私も募金活動をする前はそうでした。でも、実際に救われている人はたくさんいます。学校に行きたくてもいけない子達が教育を受けることができます。そう思うと募金活動にさらに積極的に参加したいという気持ちになります。この気持ちを忘れずに残りの半年もボランティ

例会行事 I A C年次大会報告会 続き

ア活動を頑張っていきたいです。本日はありがとうございました。

■ 2年生 安野 萌 様

私がこの2年間のインターアクト部の活動の中で、最も印象に残っているのは、マーサでの募金活動です。ユニセフの方々と一緒に「栄養不良から小さな命を守ろう。」をテーマに活動しました。5～7人のグループに分かれて、それぞれの場所で行いました。マーサに来ている方々に、「募金活動を行っています。よろしくお願いします。」と大きな声で呼びかけ、募金をして下さった方には、「ありがとうございました。」とお礼を言い、約2時間活動をしました。とてもたくさんの方々が募金をして下さいました。小さな子どもからご年配の方まで幅広い方々が募金をして下さいました。活動をする中で、募金をして下さいの方々の優しさを感じることができました。今まではあまり募金をした事がなかったけれど、募金をしてもらおう立場を経験したことで、募金をしたいと思いました。

募金によって救われる命があることも学び、ボランティアの必要性を強く感じる事ができました。これで終わります。ありがとうございました。

■ 2年生 田口 真衣 様

私が1番力をいれているのは”ペットボトルキャップ洗い”です。私たちは毎週水曜日に活動をしているのですが、その活動のたいはんがペットボトルキャップ洗いをします。

小学校の頃からキャップ集めをしていましたが、高校でこの部活にはいる前はなんのために集めているのか理由ははっきりと知りませんでした。

しかし、このインターアクト部に入ってキャップを集めることで途上国の人たちを助けることができるということを知りました。キャップ800個を業者に渡すと20円になり、ワクチンを1本買うことができます。私たちはいつも何も考えず、飲み物を飲み、飲み終わったペットボトルをゴミ箱に捨てています。その捨てたペットボトルのキャップが誰かの命を助けるかもしれないという事を知らずにいるのです。

その事実を知ってから私は、「ペットボトルキャップを少しでも多く、集めよう」そう思うようになりました。

自分の行動で誰かの命が助かるかもしれない。誰かの力になれるかもしれない。そう思うこのインターアクト部はすごく意味のある部活だ

例会行事 I A C年次大会報告会 続き

と思います。きっとこの部活にはいっていなかったらボランティア活動もすることはなかっただろうし、ペットボトルキャップ集めの本当の意味も知らなかったと思います。

だからこの部活に入ってよかったと思いますし、このインターアクト部という部活に誇りをもってこれからもっと色々な活動に参加したいと思います。私は今、2年生で3年生から新しく入ってくる1年生にペットボトルキャップ洗いをやる意味をしっかりと伝え、この活動が続いていくことを願っています。本日はありがとうございます。

例会風景



8月23日(水) 若松学園サマーキャンプ



次回例会のご案内

第1688回 例会 9月3日(日)
 岐阜北ロータリーカップバレーボール大会
 開会式 岐阜メモリアルセンター
 担当者：青少年奉仕委員会

会報・広報 8月担当 長野 鉄司